

1 学年通信 特別号

— 1年生、頑張っています —

4月に入学してから、様々な場面で生徒たちが頑張っている姿を見てきました。その1つに、『現代の国語』での取り組みがあります。授業の中で生徒が作った多くの短歌や俳句が、上毛新聞に掲載されました。瑞々しい感性がキラキラと輝いた作品ばかりですので、ご紹介します。

[2024.6.17 掲載 短歌]

- ・あこがれの君から貰ったいちごミルク甘いこの味私の具現化
- ・目玉焼き一色だけが輝いている黄身になりたい地味なわたし
- ・一月の雪の降る日に映えるのは今日のお昼のマカニニサラダ
- ・冬の夜寒くて着こむセーターは人はだのように安心できる
- ・受験生心に霧雨かかっては大丈夫だと信じる心
- ・友達に書いてもらった最後の言葉忘れぬ思い出大事に飾る
- ・卒業をひかえた教室そこにある思い出あふれるきれいな黒板
- ・消しゴムで消せない昔黒歴史白くなるまで必死にこする
- ・春休みクローゼットに制服を入れて実感高校生だと
- ・春別れなごり惜しさを抱えても時は待たずに花は散りゆく
- ・アゲハちょう春を知らせにやってくる今年の春はすてきなピンク
- ・しゃぼん玉青空の下消えるけど桜の花はまだ残ってる
- ・満月を部屋の窓から見上げて君の横顔目に焼きつける
- ・気がつけば目で追っている君がいる心に秘めた甘い恋心
- ・三日月が照らす水面に写る君は己の中の一つの宝
- ・席替えてじっくり見つめる座席表隣の人が運命の人

[2024.6.20 掲載 俳句]

- ・凜と立つ空の青さに気づく夏

[2024.6.24 掲載 短歌]

- ・好きな事否定されないことにすら幸せになる思春期十五
- ・悲しくて胸がドキドキ痛くなるツキノワ熊になりたくなくて
- ・寒い日の雪の表面キラキラと雪が舞い散る朝方の空
- ・桜咲く別れの季節さよならとあなたの表情傘で見えぬまま
- ・授業中ふと外見たら春風が顔を通して春を知らせる
- ・ゆらゆらと風に乗ってる葉っぱたち私も風に乗らせてほしい
- ・夏の日の塩素のにおい水の音プールをみるとなつかしくなる
- ・夏の空入道雲が形かえ自由気ままに散歩している
- ・青空にまっすぐのびるひまわりは太陽によって光輝く
- ・雨の中気分が下がる帰り道遠くに見える虹色の橋
- ・五色ペン場所に合わせて色変える相手に合わせる言葉のようだ
- ・寝る前にスマホにさした充電器朝には満たん私と同じ
- ・日々の幸積もりまくればパンケーキキまるでふわふわ私の心

[2024.7.11 掲載 俳句]

- ・帰り道夏が道路に座っていた
- ・夏の空体育座りとにじむ汗
- ・鳴神や天空さいて姿消す

[2024.7.25 掲載 俳句]

- ・自転車でもっといそげと夏の風
- ・君を待つラムネの音を転がして

[2024.8.25]

- ・髪洗う今日の後悔かみしめて